

防災研修(机上演習)の実施

1 趣旨

2004年10月23日 最大震度7の新潟県中越地震が発生。また、2019年10月13日 台風19号で長野県の千曲川の堤防が決壊する災害が発生していることから、「防災研修(机上演習)」を実施することにより「人命最優先」の行動を社員一人ひとりが実施できるようにする。

2 防災研修(机上演習)の概要

- (1) 実施時期
2020年10月
- (2) 対象者
全社員(期間雇用社員含む。)
- (3) 実施方法
 - ア 支社から、防災研修の指示文書(「机上演習」の資料を添付)を発出
 - イ 管理者等から、全社員に趣旨を周知の上、机上演習資料を配布
 - ウ 全社員が机上演習による「個人ワーク」を実施
 - エ 個人ワーク後、管理者等から行動例等を解説
 - オ 管理者等は、社員から提出された机上演習資料を確認し、全体に示すべき事項について周知
 - カ 管理者等は提出された机上演習資料を社員に返し、社員各自で保管

3 スケジュール(予定)

- 10月8日 指示文書 発出
10月14日～ 防災研修 実施

防災研修(机上演習)の実施

4 机上演習の実施方法(詳細)

(1) 資料の配布

管理者又は管理者から指示を受けた役職者等(以下、「管理者等」という。)は、防災研修の支社指示文書に基づき、全社員(期間雇用社員含む。)分の「机上演習の資料」(以下、「資料」という。)を準備し、ミーティング等の際、全社員に防災研修の趣旨を説明の上、資料を配布し、期日(例:次回のミーティング等)までに記入するよう指示

(2) 個人ワーク

社員は手すき時間を利用し、期日までに資料に個人の考えを記入

(3) 解説

期日後のミーティング等の際、管理者等から資料(説明者用)を用いて、行動例・ポイント等を解説。社員は解説を踏まえ、個人ワークで不足していた行動例等について資料に朱記し、管理者等に提出

(4) 資料の内容確認・周知

管理者等は、提出された資料の内容を確認し、全体に示すべき事項があれば、ミーティング等で周知(例:素晴らしい行動例を考えた社員が発表し全体共有する、多くの社員が誤って認識している事項を正す等)

(5) 資料の保管

管理者等は提出された資料を社員に返し、社員は資料を各自保管

5 実施のポイント

- 個人ワーク等によって、社員一人ひとりが考える研修を実施
- 机上演習は、大規模局・小規模局等の各局の局状に応じ「1日で実施」、「数日に分けて実施」等、管理者等が工夫して実施

机上演習資料

氏名:

災害時、管理者・役職者・一般社員等、自身の立場で取るべき行動について、考えてみましょう！

【場面設定①】

発生状況:あなたは出勤しており、郵便局内で業務中です。

災害規模:新潟県中越地震並みの震度7の強い地震が発生しました。

被害状況:キャビネットが倒れ、床に物が散乱しています。現在、揺れはおさまっています。

①地震発生直後、あなたはどのように行動しますか？

【場面設定②】

発生状況:管理者は出張で不在、社員は出勤しています。

災害規模:台風接近に伴い大雨が降り続けています。

被害状況:自治体から「避難準備」(※1)が発令され、今後「避難指示」(※2)発令となる可能性があります。

(※1 避難準備:自治体が、事態の推移によっては避難指示等を発令することが予想されるため、避難の準備を呼びかけるもの)

(※2 避難指示:自治体が、災害が発生するなど状況が悪化し、人的被害の危険性が非常に高まり、立ち退きを求めるもの)

②避難指示発令前にあなたはどのような確認や対応をしておきますか？

<防災ワンポイント>

自宅・自局において災害発生した場合の避難先を書いてみましょう！

自宅

自局

机上演習資料(説明者用)

(はじめに)

災害は、発生時の状況によって取るべき行動が異なりますが、「人命最優先」で行動してください。
(以下の行動例やポイントを解説。また、説明者は「災害対応マニュアル」(Navi:41107)を参考に
自局の状況を踏まえて下記の行動例以外も考えて、解説に追加してください。)

【場面設定①】について、地震は、突然発生する災害です。発生後は、自らと周囲の安全を確認しながら行動しましょう。

①地震発生直後、あなたはどのように行動しますか？

行動例 <全社員共通>

- お客さま及び社員の人命が第一、まずは自らと周囲の人の安全を確保
- 自局の被害状況を確認し、危険があれば、倒壊や足元等に注意しながら避難
- 局周を確認し、近隣の家屋倒壊や火災等危険があれば、避難先等に避難
(以降の4項目は、安全が確認されてから)
- 機械類・建物の異常の有無(特に火元や漏電)の確認
- 長袖・手袋等で体をガードし、ガラス破片等に注意しながら局内の現状復旧
- 非常用物品(ヘルメット・食料品等)の確認 ○ 安否確認システムへの応答

行動例 <管理者(管理者不在の場合は次席社員)>

- 人命に関わると判断した場合、局内の人を誘導し避難 ○ 社員の怪我の確認
- ラジオ・テレビ・自治体等からの避難情報等の収集 ○ 当日不在の社員の安否確認

【場面設定②】について、災害に備え、事前確認や被災想定した対応をしましょう。また管理者が不在の場合の対応も考えておきましょう。

②避難指示発令前にあなたはどのような確認や対応をしておきますか？

行動例 <全社員共通>

- 避難指示発令に備え避難の用意 ○ 非常持出物品の保管場所確認
- 高い場所への重要式紙等の退避等、浸水被災を最小限に留める工夫(※1)
(※1 自局がハザードマップの洪水浸水想定区域等に指定されている場合は特に注意)

行動例 <次席社員>

- 避難の可能性の旨支社等に報告(※2) (※2 連絡会・部会が取りまとめて報告することも可)
- ラジオ・テレビ・自治体等からの避難情報等の収集

行動例 <管理者>

- 次席社員に普段から「管理者不在でも、状況に応じ管理者代理として対応し、緊急時は即避難」の旨指示
- 出勤・帰宅が困難になりそうな社員への勤務措置の指示

(注：避難指示発令前でも人命に係ると管理者(次席社員)が判断した場合は、即避難)

<防災ワンポイント>

災害の種類や地域によって、避難先が異なる場合があります(例：地震は公園などの避難場所、大雨は公民館などの避難所)。また、避難途中で被災してしまう場合もあります。避難先への避難を原則にしつつ、避難する場合は、状況に応じて避難先を考えましょう。